

# 令和8年産 麦作情報 第2号

宮城県亘理農業改良普及センター 令和8年3月19日発行  
 電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143  
 ホームページ<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>



## 1 麦生育状況

地区名	品種	播種時期		3月10日調査 (3/16実施)			予測	
				草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂長 (mm)	減数分裂期 (幼穂長が20~30mmの頃)	出穂期 (全茎数の40~50%が出穂した日)
名取市 本郷	シュンライ	11月14日 条播	本年値	11.3	262	0.9	4月25日 頃	5月2日 頃
			平年比, 差	80%	37%	-1.8		
名取市 下増田	シュンライ	10月30日 散播	本年値	9.4	928	2.1	4月18日 頃	4月26日 頃
			平年比, 差	76%	53%	-0.1		
平均			本年値	10.4	595	1.5	4月20日 頃	4月28日 頃
			平年比, 差	79%	48%	-1.0		

※減数分裂期及び出穂期の予測は「麦生育予測シートVer. 4.0」（名取アメダスデータ）の予測日

- 気温は、1月は平年並み、2月はかなり高めとなりました。降水量は、1月から2月中旬にかけてはかなり少なく、2月下旬にまとまった降水がありました。日照時間は、1月は多く、2月は平年並となりました。
- 3月16日調査の幼穂長は約1.5mmであり、間もなく幼穂形成期（幼穂長2~3mm）となります。生育ステージは平年よりやや遅れています。
- 減数分裂期、出穂期は前年よりやや遅れると予測されます。

## 2 今後の栽培管理

### (1) 大麦の追肥

- 追肥のタイミングが遅れると、品質低下（硬質粒の発生）のリスクが高まります。

追肥の種類 (生育ステージ)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm) (3月中旬~4月上旬)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm) (4月中旬~4月下旬)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	-
10月中旬に 播種したほ場 (生育量が多い)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない

幼耳間長から  
減数分裂期を判断

減数分裂期 (葉耳間長 -30mm~+39mm)

幼穂長	20mm		25mm		30mm
葉耳間長(mm)	シュンライ -30~-19	→	-12~0	→	+23~+39
	ミノリムギ -36~-23	(1~2日)	-25~-15	(1~2日)	+5~+18
葉耳間長の形態的推移					

## (2) 麦踏み (踏圧)

- 越冬後の麦踏みは莖立前(幼穂長約 2mm)までとされています。適期を過ぎた麦踏みは、幼穂を損傷する恐れがありますので行わないようにしましょう。

次号は、4月15日頃発行予定です。